

令和4年度授業改善推進プラン【1年生】

教科	現状の課題	具体的な改善のための方策
国語	<p>△促音や拗音を適切に書くことができない児童がいる。</p> <p>△テストの問題など、何を聞かれているのか正しく読むことが難しい児童がいる。</p> <p>△読書量の違いが大きいため、語彙力の差が大きい。</p>	<ul style="list-style-type: none"> デジタル教科書を使用し、読み上げや書き込みを行うことで理解を深める。 促音や拗音は、実際に発音をさせて、声に出しながら書く練習をさせたり、その言葉が入った文章を視写させたりする。 「何が」「何を」「どう」「どんな」など、問いに使われる言葉を丸で囲むように促し、一人で読んでも、何を聞かれているのかが明確になるようにする。 教員や図書委員の本紹介動画や読み聞かせなど本に触れあう時間を設ける。 学級文庫の入れ替えや学習に関連する図書の紹介など、読みたい時に手に取れるようにする。
算数	<p>△文章問題の題意を十分に理解せず、数字だけを見て立式しているため、題意にあった立式になっていない児童がいる。</p> <p>△「たしざん」や「ひきざん」の計算に時間がかかる児童がいる。</p>	<ul style="list-style-type: none"> 具体物の操作や書き込みの際に ICT を有効的に活用する。 キーワードに線を引かせることによって、問題を把握させる。 何を聞かれているのか、何が何個あるか、単位は何かを全体で丁寧に確認する。 図を描いたりブロックを使ったりすることによって、問題場面を具体的にイメージできるようにする。 計算カードやフラッシュカードを使って、数の合成や補数などを身に付けさせることで、数的感覚を養う。 ペアで問題を出し合ったり、確認し合ったりして、楽しく取り組めるようにする。
生活科	<p>△意欲はあるが、発見カードに気付きを書くことが難しい。</p>	<ul style="list-style-type: none"> めあてを意識させ、観点（色・形・触った感じ等）を示してから取り組ませる。 友達同士で発見カードを読み合い、「いいところ見つけ」をさせることで、次の観察に活かす。
音楽	<p>△拍に合わせて、正しい指使いで鍵盤ハーモニカを演奏することが難しい児童がいる。</p> <p>△リズム打ちを正確に行うことが難しい児童がいる。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ICT を活用し、視覚からも音楽に親しむことができるようにする。 楽器の基本的な奏法を覚えさせ、1小節ごとに確認しながら進め、その都度励ます。 個別指導と共に、ペア練習等学習形態を工夫して練習をさせる。 リズム譜を声に出して練習してから、リズム打ちと正しく連動していくようにする。
図工	<p>△自分のイメージがなかなかまとまらず、作品作りに入るまでに時間がかかる児童がいる。</p> <p>△人物では、顔、首、体、手、足などのパーツがうまく描けない児童がいる。</p>	<ul style="list-style-type: none"> 見本を見せながら道具や材料の適切な使い方を指導し、イメージが膨らむような作品事例を紹介する。ポイントを押さえて作業の手順を分かりやすく説明する。 人物の描き方を例示したり、友達の作品のよさを見つけたり、発表したりする場を設定する。
体育	<p>△ボール運動や水泳等、「できない」「やりたくない」と、最初から取り組もうとしない児童がいる。</p> <p>△ボール運動や体づくり運動では、「転ぶ」「顔を打つ」等、バランス感覚や瞬発力が足りない児童がいる。</p>	<ul style="list-style-type: none"> 「やりたい」「楽しい」という気持ちになるように、スモールステップで少しずつ、できるようになったことを教員が認め、児童に意識させながら進める。 いろいろな運動を、準備運動も含め、少人数で時間をかけて行う。けがをさせることがないように気を配りつつ、自身の体の動きを調節できるようにする。